

新校舎落成に際して

身延山高校々々 里 見 泰 穩

棲神の第四十号を、学長猥下の米寿と新校舎落成の記念号として発刊することになった。学長猥下の積極的なお考へと、理事長の決断によって、近代的な校舎が立派に竣工した。五十年以上の年輪を重ねた木造校舎に代って鉄筋コンクリート五階建ての新校舎が、緑の山を背景に建っている姿は、実に壯観である。

過去何十年の間、本学関係者は教師も学生も、卒業の同窓も、待望していただけに、その喜びに一入深いものがある。校舎新築は過去の長い間に、幾度となく計画されては、立ち消えていたものようである。私たちの知らない旧い時代につくられた設計図などが事務所にあるのを見ても、先輩たちの熱意が見えるようである。それだけに本学卒業の同窓諸賢も口を揃えて心から喜んでいただいた。それと同時に、此処に到るまでの陰に陽に、物心両面にわたっての御支援も絶大なものがあつた。同窓諸氏のみならず、宗門有縁の方々、身延山有縁の各氏の御後援も、筆に尽せないものがある。またこのような大事業が遂行されるまでには、私たちの知らない思はぬところで、思はぬ人々の御好意や御尽力を受けているものであり、思ひ合せて感謝に堪えないものがある。此の新らしい教育の場に、充実した教育と研究の内容を芽生えさせることにとめることが、私たちのこれからの進むべき道であることを痛感する。